

よこはま市工連



横浜市工業会連合会主催 第31回新入社員合同研修会
於 帆船日本丸



No.76

目次

平成29年度横浜市工業会連合会役員の紹介	2
新入社員等若手社員のフォローアップ 研修会参加者へのインタビュー	4
新入社員合同研修会	16
平成29年度経済局関連主要事業	19
平成29年度横浜市産業振興に関する要望についての回答	20

発刊日：平成29年7月15日
編集・発行：一般社団法人横浜市工業会連合会
〒231-0023
横浜市中区山下町2番地
産業貿易センタービル2階
TEL. 045-671-7051
FAX. 045-671-7321
URL: <http://www.y-shikouren.or.jp/>



平成29年度 横浜市工業会連合会役員の紹介

平成29年6月22日（木）ホテル横浜ガーデンにて平成29年度定時総会・第1回理事会が開催されました。平成28年度の事業報告、決算報告の審議に加え、地域工業会の役員改選等に伴う市工連役員等の選任が行われ、すべて承認されました。

その他「平成29年度横浜市予算に対する産業振興に関する要望書の回答について」、経済局ものづくり支援課中村課長から説明をいただきました。

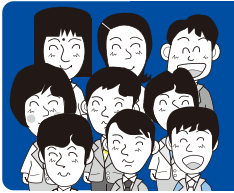


平成29年度横浜市工業会連合会役員名簿

役 職 名	氏 名	事業所・役職
会 長	榎本 英雄	海洋電子工業株式会社 代表取締役社長
副会長	加藤 卓郎	株式会社加藤組鉄工所 取締役社長
〃	斎藤 隆正	株式会社ワイシー・ドキュメント 取締役顧問
〃	黒田 憲一	大洋建設株式会社 代表取締役社長
〃	寺嶋 之朗	プリンス電機株式会社 代表取締役社長
〃	稲村 直之	有限会社稲村建具 代表取締役
理事	田中 修	メルビック電工株式会社 代表取締役会長
〃	遠藤 昇	横浜ステンレス工業株式会社 代表取締役会長
〃	長谷川 浩正	日興テクノス株式会社 代表取締役社長
〃	松村 洋一	協立金属工業株式会社 代表取締役
〃	秋本 順生	ニッパ株式会社 代表取締役会長
〃	岩谷 憲和	有限会社一建テック 代表取締役
〃	林 琢己	横浜市経済局長
専務理事	川崎 圭子	一般社団法人横浜市工業会連合会 専務理事
監 事	猪鼻 久義	猪鼻会計事務所
監 事	志村 洋一	鶴見プレス工業株式会社 代表取締役

市工連委員会

委員会	役職	氏名	事業所・役職
総務委員会	委員長	黒田 憲一	大洋建設株式会社 代表取締役社長
	副委員長	遠藤 昇	横浜ステンレス工業株式会社 代表取締役会長
	委員	田中 修	メルビック電工株式会社 代表取締役会長
	委員	早坂 貴則	古河電気工業株式会社 横浜事業所 総務課長
	委員	横山 敦子	株式会社カンザイ 代表取締役
	委員	鈴木 清	港南テクニクス株式会社 代表取締役
	委員	福久 正毅	新興プランテック株式会社 執行役員総務・人事部長
	委員	松尾 光雄	株式会社九十パーカリーシャルン 取締役会長
	委員	金本 光雄	株式会社万倉商事 代表取締役
政策委員会	委員	山崎 一	株式会社山喜 代表取締役
	委員長	加藤 卓郎	株式会社加藤組鉄工所 取締役社長
	副委員長	松村 洋一	協立金属工業株式会社 代表取締役
	委員	桐ヶ谷 修幸	株式会社桐ヶ谷工業所 代表取締役
	委員	井上 芳雄	古河電工パワーシステムズ株式会社 横浜事業所 部長
	委員	山中 清孝	千歳自動車工業株式会社 社長室付
	委員	達知 剛志	株式会社プレスビット 代表取締役
	委員	栗原 敏郎	株式会社大協製作所 代表取締役会長
	委員	長尾 浩二	株式会社I H I 横浜事業所 総務部長
事業・企画委員会	委員	安永 平雄	一幸電子工業株式会社 代表取締役社長
	委員	伊藤 知之	日本貿易印刷株式会社 代表取締役社長
	委員	黒岩 勉	株式会社羽後鍍金 代表取締役
	委員長	斎藤 隆正	株式会社ワイシー・ドキュメント 取締役顧問
	副委員長	田中 宏和	日本自働精機株式会社 代表取締役社長
	委員	岩澤 敏治	株式会社メディカルパワー 代表取締役
	委員	中村 正親	豊正工業株式会社 代表取締役
	委員	花園 美和子	朝日生命保険相互会社 上大岡営業所 管理所長
	委員	井上 博海	恵積興業株式会社 代表取締役会長
広報・産学委員会	委員	越智 勉	株式会社東芝 横浜事業所 総務部長
	委員	黒岩 順一	株式会社羽後鍍金 取締役会長
	委員	佐藤 公悦	トーレック株式会社 代表取締役
	委員	加藤 高智	有限会社工研 代表取締役
	委員長	寺嶋 之朗	プリンス電機株式会社 代表取締役社長
	副委員長	見上 博一	見上工業株式会社 代表取締役
	委員	関 曙慶	曙建設株式会社 代表取締役会長
	委員	島田 秀世	有限会社旅館松島 代表取締役
	委員	橋爪 重信	新俵機材株式会社 代表取締役
雇用・環境委員会	委員	寺井 享	寺井印刷工業株式会社 代表取締役
	委員	平野 央	東京ガス株式会社 根岸LNG基地 総務部長
	委員	横山 雅行	平和産業運輸株式会社 代表取締役社長
	委員	平良 重男	東京プロト株式会社 代表取締役
	委員	安 邦彦	株式会社日立製作所システム&サービスビジネス統括本部 総務グループ部長代理
	委員	黒田 裕太郎	港南テクニクス株式会社 代表取締役
	委員長	稲村 直之	有限会社稲村建具 代表取締役
	副委員長	久保田 耕二	久保田建設株式会社 代表取締役
	委員	荒木 郁雄	荒木工業株式会社 取締役社長
施策検討会	委員	成澤 宏	医療法人社団成澤会清水橋クリニック 事務局長
	委員	原 信吾	日鉄工営株式会社 代表取締役社長
	委員	矢矧 光雄	株式会社村山製作所 代表取締役
	委員	藤枝 慎治	株式会社グーン 代表取締役会長
	委員	加藤 豊	第一カーボン株式会社 代表取締役
	委員	笠 邦弘	株式会社ブリヂストン横浜工場 総務部長
	委員	藤澤 秀行	株式会社ニッター 代表取締役
	委員	桐ヶ谷 修幸	株式会社桐ヶ谷工業所 代表取締役
	委員	高橋 幸夫	かちどき特許事務所 所長
	委員	高木 康志	高木弁理士事務所 所長
	委員	平野 裕之	株式会社平野製作所 代表取締役
	委員	安田 芳郎	株式会社安田製作所 代表取締役
	委員	安澤 芳生	協同工業株式会社 代表取締役社長
	委員	高橋 利昌	横浜セレモ株式会社 専務取締役
	委員	児玉 聖司	株式会社ワンツ・ストック 代表取締役
施策検討会	委員	萩野 伸夫	相互電機株式会社 代表取締役
	委員	金子 一彦	三宝精機工業株式会社 代表取締役社長
	委員	加藤 高智	有限会社工研 代表取締役
	委員	犬飼 啓	株式会社東邦製作所 専務取締役
	委員	清水 敏博	一般社団法人L T R コンサルティングパートナーズ 代表理事
	委員	岩谷 憲和	有限会社一建テック 代表取締役

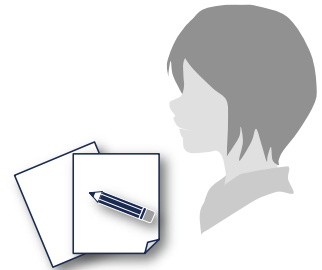


新入社員等若手社員のフォローアップ 研修会参加者へのインタビュー

平成28年11月9日(水) 新入社員から入社5年目までの若手社員を対象としたフォローアップ研修を横浜産貿ホール小展示室にて行ない12社21名の参加がありました。

この研修では、

1. 入社1～2年目の方には、新入社員として入社後を振り返り身につけた能力を検証し、不足しているところと今後の課題を見つける。
2. 3～5年目を迎えた社員の方には、自分から周囲に働きかける積極的な姿勢を身につける。加えて「自分の能力」、「仕事のやり方」、「対人関係」の3つを通じて、これからの仕事へのヒントを学ぶ。
3. 自分をどのようにスキルアップさせていけばいいか、その方法を実践的に学ぶ。



ことができ、参加者の皆さんは、最後に今後の仕事への取組目標を「自己宣言」としてまとめ終了しました。

以下、参加者全員にインタビューして仕事についてうかがうとともに、会社からのコメントも掲載しました。

コーケン化学株式会社
TEL 045-785-5551
<http://www.kohkenc.co.jp>

大好きなもののづくりの仕事を通して社会に貢献したい



う だ が わ は る か
宇田川遥香さん 20歳 品質保証部

「ものづくりをしたかったんです。化学というのは、いろいろなことに繋がっているじゃないですか。ものづくりの観点から、化学を通して社会に貢献できるところはないかと思って。それで探したらこの会社がぴったりだったんです」

入社して1年半になる宇田川さん。工業高校を卒業したらものづくりに携わる仕事がしたいと思っていた。この会社に同じ高校の先輩がいて、仕事を続けていると聞いたことから親近感も感じたという。

コーケン化学株式会社は、様々な産業や製品で使われる精密加工部品を製作するメーカー。金属素材などに写真製版プロセスを使用した耐食膜を形成し、

部分的に腐食させるフォトリソグラフィや化学的な加工方法をはじめ、レーザー加工などいろいろな精密加工を行っている。

現在は品質保証部に所属する宇田川さんの主な仕事は、できあがってきた製品を検査すること。ひとつひとつ不良や異常がないか、丹念に見て細かくチェックしていく。製品出荷前の最終段階にあたり、とても大事な仕事に携わっている。

「検査の仕事は量があると大変ですね。製品の種類がたくさんあるんですけど、最後の工程なんで責任重大です。不良品を見つけると、うれしくなっちゃいます。本当はだめなんですけど(笑)」

製品の検査を行っている部屋は静かな空気の中、全員が神経を集中させて仕事をしている。だから少し怖いのかなとも思ったが、話してみると愉快で楽しい人が多く打ち解けた。現在もそれは変わらず、楽しく勤務している。入社してから痛感したのは、自分から発信していくことの大切さだった。それは後輩にも伝えたいことだという。

「わからないことがあればすぐ聞いて、自分から発信していかないと、相手にもわからないし。わかってないままでは絶対にだめだと思います。今は迷惑なくらいどんどん聞いちゃいます」

所属する部署では検査以外にも加工、測定、梱包などの業務も行っており、それらの仕事もやってみたくて話す。それができたらゆくゆくは製造にも挑戦して、もっと深くものづくりに関わってみたいと意欲を見せていた。



〈会社からのコメント〉

平成28年11月に横浜市工業会連合会主催の「新入社員等 若手社員のフォローアップ研修会」へ平成28年4月入社の男性2名に参加していただきました。

社会人として求められる心構えから始まり、仕事を通して自己成長を図る重要性など、参加者を3名から4名のグループに分け、入社してから現在までを振り返り討論したことでキャリア構築に向けての目標意識を持つことの重要性を認識できたそうです。

大人として社会人として大事なエッセンスは社内研修することが難しく、2名の参加者からとても良かった、すぐに身につけることは難しいが意識して行動していきたい。将来的な目標を見つけると同時に会社にとって必要な人間になれるよう努力をするなど頼もしい感想を聞くことができました。

新企画のこの研修会は彼らが今後仕事を継続して行く上で人間形成のフォローアップに大きく役立ったと思います。

シナノ紙工は家電製品や大型玩具製品等に使用されている、従来の段ボールの強度を維持し、より精度の高いカラー印刷された段ボール製品的美粧化を目指しています。また、紙器製品的美粧を維持し製品の保護機能をUPさせた環境にやさしいパッケージの提案として、段高0.6mmのマイクロフルートを導入し、小さなパッケージに使用する段ボールのさらなる美粧化を追求しています。

もの作りという仕事は素晴らしくやりがいがあり、

作った製品が社会の役に立ち人々の幸福に役立つ価値ある面白い仕事であると思います。

環境に優しいリサイクル率の高い段ボールケースはまさに時代の申し子ともいえますが、時代にあった物づくりに変化させていかなければなりません。

すべての人が信頼関係で結びつき、会社発展の為に力を発揮できるように環境を整えています。明るく元気に、思いやりをもって仕事に向かい、一人でも多くの社員にこの会社で働いて良かったと思っていただける企業を目指します。

経験ゼロからのスタートで見いだした仕事のおもしろさ



あぐたがわゆうすけ
(左) 芥川佑介さん 25歳 業務部
かみ や たかし
(右) 神谷卓嗣さん 27歳 営業部

横浜市保土ケ谷区にあるシナノ紙工株式会社は食料品や化粧品、電気製品などを包むバラエティに富んだパッケージになる印刷紙器、美粧段ボールケースなどの製品を製造しているメーカー。製品の製造に加えて、パッケージや宣伝材料の企画や開発も自社で行い展開している。

芥川さんと神谷さんは2016年4月に入社。2人とも入社前は業種や会社のことは知らなかったというが、会社の説明会で社長の話を聞き、パッケージ製品を目にしたことで同社に興味を持った。そのことが、入社を決めたきっかけになったという。

「経験ゼロからのスタートなので、先輩について仕事の全体的な流れですとか、勉強することが多いです。営業に先輩と一緒に出かけたりもしています。製品の設計などにも少しずつ関わったりとかしているので、今は仕事が入社した時よりも面白くなってきました（神谷）」

「業務課なので生産管理とか副資材の管理、伝票の作成などを主にやっています。覚えることがたくさんありますね。今までずっと机に座ってやるという経験があまりなくて。でもやればやっただけ結果が出てくるものなので、終わってみると達成感が自分なりにあります（芥川）」

日々の業務をこなしながら学んでいく中で、普段は気にしていなかった商品の入っている箱や包装に、多くのアイデアとそれを実現する努力と苦労があることを知った。自分たちがそれを作る側に回ってみて、初めてわかったことだった。そして近い将来、

自分たちが携わった製品を世に送り出していきたいと語る。

「先輩のアドバイスを聞いたり自分の知識や経験を増やして、自分の担当を持ったときに、自分のオリジナルを提案できたらと思います。それが世の中に出ていったらすごいと思うし、その先にもつながるのでそういったことを目標に、意識して仕事をしていきたいですね（神谷）」

「生産管理にすごく興味があって、営業さんが持ってきた仕事には納期があるんですけど、それに各工程を当てはめていって納期までに製品を作る。難しいんですけど、それができるようになりたいです。もっと知識を深めて、業務的な視点で総合的にアドバイスできるようになればいいと思っています（芥川）」

メルビック電気株式会社

TEL045-434-1886

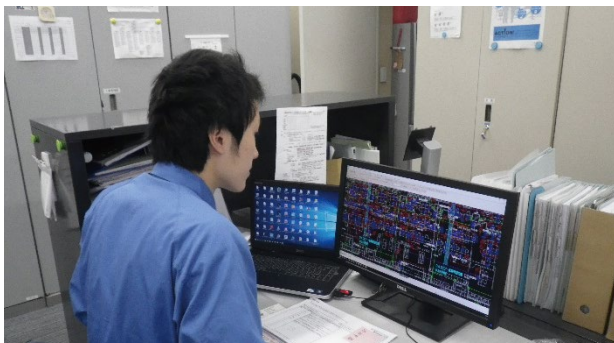
<http://www.melvic.co.jp>

〈会社からのコメント〉

当社では、新入社員教育（神奈川県電業協会主催）ビジネスマナー研修 1・2（トーマツイノベーション(株)、熱中症予防、普通救命講習（客先講習）等の研修を毎年実施しております。初めて社会人として働く皆さんに、少しでもサポートが出来る体制を考えています。

又、階層別の社外研修・講習会等への参加を積極的に支援し、国家資格等会社が認める資格取得の費用を補助しています。

仕事ばかりでなく社員旅行・社内レクリエーション等活発に活動しております。（当社HPもご覧ください。）



目に見える仕事を自分がやっていると実感



さ さ き ま お

佐々木真央さん 19歳 電設本部内線工事事務

フォローアップ研修を体験して1年経ちました。

何も知らない・解らないまま幾つかの現場で仕事をさせていただき、仕事の進め方と、コミュニケーションの大事さがわかりました。

小学校の新築現場では、材料搬入、現場での是正、職人方との対応等を任されていました。

また、施工図の修正も何度かありました。

現在就いている消防署の現場では、CADによる施工図・計画図の作成などでCADに触れることが多くなり作図程度ならばこなせるようになりました。まだ上長の下で仕事をこなしていく立場ですが、5年後・10年後には自分が現場代理人として、工事全体をみられるようになるために、現場での経験と資格取得のために頑張ります。（佐々木真央）

工業高校の電気科を卒業した佐々木さんは、在学中に電気の施工や実習で技術や知識を学び、電気工事士の資格を取得。自分が好きで得意でもある電気関係の知識や技術を活かした仕事をしたいと、現在の会社に入社し8か月が経った。

佐々木さんが所属しているのは、横浜市神奈川区にあるメルビック電気株式会社の電設本部。横浜市内を中心に公共施設の照明設備、集合住宅や高層ビル、工場などの受配電設備、動力など電気設備工事や電気通信工事を行っている。

もともと佐々木さんは現場で作業をする職人となることを志望していたそうだが、現在は職人たちに指示を出したり、図面を製作する施工管理の仕事をを行っている。現場に行くことも多くあり、先輩や上長の手伝いをしながら学んでいる最中だ。

「現場でいろいろなことを実際に見たり、教わったりしながら仕事をしています。会社から勧められた資格の勉強もしています。現場で自分で見たことを後で調べたりするのですが、現場で学べることはとても多いです。それにいろいろな業種が関係するので、電気だけでなく建築とかの勉強もできることも魅力です」

例えば小学校の増築やマンホール内の高圧ケーブル交換などの仕事をしていると、公共性の高いものを作っているという社会的な使命感みたいなものを感じる。実際に生徒さんが学ぶ建物を作るとか、目

に見える仕事を自分がやっているんだと実感することが、仕事へのモチベーションになっている。

週末の土曜日でも工事は進行していて職人たちが作業をしていることから、自分たちも現場に出ることが多い。まだ仕事も現場にも慣れていない初めのうちは大変だったし、苦労することも多かった。

「電気施工管理士という仕事はハードだと思います。それでも大変な反面、学べることや勉強できることも多いので、仕事をしているという実感が得られるんです。そういうところが働いていて楽しいです」

近い将来いちから図面を作ったり、自分が主体になって現場を動かしていきたいという思いがあると語る。しかしまだ入社1年目であり、もっと知識や経験を積んでからできるよう、がんばっていききたいと思っている。

岡谷セイケン株式会社

TEL045-772-1381

<http://www.okaya-seiken.co.jp>

〈会社からのコメント〉

当社は創業以来、金属加工一筋に50年の長きにわたり営業してまいりました。

自動車部品の切削加工を主な業務としていますが、昨今のグローバル化により納入先は世界に広がっております。商売柄、大変に地味な会社ですが、お客様にお引き立ていただきながら、着実に成長拡大を続けています。

当社の経営理念は「企業の繁栄と社員の豊かさ・生きがいを追求する」です。

企業の存在価値はそこに勤める社員が共に喜び、幸せな人生を送れることにあり、そのためのお手伝いだと考えています。折角の人生ですから、縁あって同じ会社に勤めたのであれば、楽しく仕事をしたいと思うのは皆さん同じと考えております。

当社はまだまだ中小企業のレベルですが、皆さんと共に高い目標を掲げて成長出来ればと思っています。当社も50年を超えましたが、まだまだこれから成長する企業だと自負しております。企業が成長するためにはまず人です。

次代を担う人材をしっかり育てていくことが、これから成長を継続できる企業と思い、人材育成には大変に力を入れております。

入社された若手社員の皆さんには、早く会社慣れいただき、また社員同士お互いが助け合い、切磋琢磨しながら自分自身のスキルを高めて一日も早く戦力になっていただけるよう期待しています。



仕事の使命と責任の大切さを知り変わってきた意識



まず だ た つ や
増田達哉さん 25歳 営業部

入社してまだ3か月という増田さんが勤めているのは、岡谷セイケン株式会社。自動車や航空機で使われている部品や油圧部品を、高い切削技術と研削技術で製造している精密切削部品メーカーだ。横浜市金沢区に本社と工場を構え、同社発祥の地である長野県岡谷市、秋田県横手市、ベトナムにも工場を展開している。

増田さんは現在、営業部の戦力となるべく、自分の仕事がどのような内容であるのか、自社が製造している製品はどのようなものなのかを目下勉強中とのこと。

「もともと深く興味のあるジャンルではなかったですけど、前職でも製造業の仕事をしていたので、ものづくりの仕事は好きだし楽しいです。これからいろいろとステップアップしていきたいです」

研修に出席したり、工場へ見学に行ったりと、学ぶことや覚えることが多くて大変な毎日。覚えることはたくさんあるが、聞けば聞くほど教えてもらえたので楽しさもある。

「会社で作っている製品はたくさんの自動車に使われていて、外からは見えないんですけど。それがあってこそ自動車が走るということを知ってから、自社の製品を見る観点が変わりましたね。小さい部品なんですけど、それがないと機械が動かないので」

仕事や会社について、様々なことを知るうちに自社の製品の必要性や重要性を理解した。すると自分の仕事に対する意識も少しずつ変わってきたという。

自分たちの作っている製品が、どんな所で使われ、どういった働きをするのかをもっと深く理解したい。だから当分は勉強が続く。そういった中で理解したのが、自分の仕事に対する使命と責任の大切さだった。

「自分のやっていることが全体に関わってくるので、そういう部分での責任がなあなあにはできないので。しっかりやらないと周りの人に負担がかかるし。お客様にも迷惑がかかってしまうので。就職してから意識がだいぶ変わりました」

これから先、第一線に立つようになったらいろいろな分野に挑戦したいと語る。

「まだわからないですけど、自分たちが作っている製品がもっと他の分野でも活かせるんじゃないかなと思っています。そういう新しいことを、営業として開拓していきたいと思います」

株式会社ディムコ
TEL045-352-7888
<http://www.dymco.co.jp>

製品の良さを伝え信頼を勝ち取る仕事を目指して



いち げ わたる
市毛 航さん 25歳 開発営業 G

入社して1年目の市毛さんは、それまで工業系のメーカーには縁がなく自分にとって未知の世界に飛び込んだ。

「会社を見に行ってもすごく面白いなと思ったんです。まったく知らなかったんですけど、いろいろ話をさせていただいて、こういう世界があるというのを垣間見て。それで興味を持ちました。ベルトコンベヤって単純に物を運ぶ機械だと思っていたら、実はいろいろなことができることがわかったんです。それが面白いなと思いました」

横浜市磯子区にある株式会社ディムコは、スチールベルトやスチールベルトコンベヤ、成形機などの設計と製作、販売を行っているメーカー。お客様の要望や用途に合わせた製品を提案し、高い技術力で開発と製品化を行っている。

市毛さんは自ら動く仕事がしたかったと、製品を作る方ではなく営業職を希望し配属された。

「初めて見るいろいろな機械が新鮮で、それを学んでいくのも楽しいです。機械の良さを人に伝えていく、広めていくのも面白いです。そういうことを自分の力でというか、専門的なスキルが欲しいです。そういう意味では深く学べる仕事だと思いました」

現在は先輩社員に同行して納入先や仕入れ先をまわっている。また工場に行って機械や製品の現物を見たり、材料や鋼材について学ぶ日々だという。その中で感じたのは、寄せられたニーズをもとに、ゼロから新しい物を作り出すおもしろさです。

「お客様からは、こういう機械を作れないかっていうのが多いんです。まったくやったことのないことを、できそうかな?から始めて、こうやればできるんじゃないかと作ってみて。問題が出たらそれを解決して。会社として、新しい物を出していこうという気持ちが強いんですね」

ひとつの製品を作り上げるまでにはトライ＆エラーを何度も繰り返す。それができるのも、上司や先輩に対してお客様からの信頼があってこそ。自分

もそうなりたいと語る。

「失敗やうまくいかないことを乗り越えていくわけですけど、お客様がそれにお金を出してくれるわけですから、期待と信頼がないとできないことですよね。そこにお客さんや外注先がついてきているので、信頼関係がすごくあるんだなっていうのが見えてきて。自分もそういう働き方をしたいと思いました」

株式会社山喜
TEL045-784-3352
<http://yamaki-tech.co.jp>



〈会社からのコメント〉

弊社は自動車や鉄道など回転する構造に使われるベアリングという部品を製造しております。

ベアリングとは簡単にご説明すると摩擦抵抗を減らすための機械部品です。上記以外でも風力発電や航空機、また建設機械や工作機械など様々な産業において使用されており、このベアリングの精度がそれぞれの機械や装置の品質精度やエネルギー効率に大きな影響をもたらしております。

ベアリングの精度が良ければ燃費性能があがり、二酸化炭素排出量を削減できることで地球環境にも貢献することになります。“産業の米”とも言われており、この世の中において必要不可欠な部品のひとつです。

1947年に横浜市金沢区に創業し、70年近くにわたりこのベアリングの製造を続けております。

「変化を恐れず、進化を目指す」をモットーに、近年では5軸マシニングセンターや複合加工機を

積極的に導入し、今まで蓄積された加工ノウハウを活用しながら試作開発品から量産品まで対応しております。またIoTやロボットなど先端技術を活用し、工場内の自動化や省人化にも取り組んでおります。その反面、人間でなければできない超複雑な技術の追求も行っております。

山喜は人と機械の協業により最高のものづくりを目指し、これからもチャレンジを続けていきます。

できあがった製品に感じる自分の仕事の大切さ



さとうけいた
佐藤啓太さん 28歳 機械加工

株式会社山喜は、ベアリング保持器やシリンダーライナーの製造をはじめ、様々な製品を製造しているメーカーだ。家電製品から自動車、航空機とあらゆる工業製品や機械で使用されているベアリングは、現代の生活に欠かすことのできない製品のひとつでもある。

5年前から同社で働き、機械加工を担当している佐藤さんは、以前にも同じような職種に就いていた。入社当初は製品加工のための道具を製作したり、壊れた機械を直すなどあらゆる仕事をこなしてサポートする、何でも屋のような部署に配属された。ここで言う何でも屋とは、非常に高い技術と豊富な知識と経験を持つ、何でもできる人たちという意味になる。上司からは技術だけでなく多くの影響を受けたと語る。

最新鋭のマシニングセンターやNC旋盤を使って製品を製造している同社だが、それとは別の特殊な加工を担当している。それは佐藤さんが現在担当している仕事。ベアリング関係とは別に、昔から行われてきた1/1000mm台の精密さを求められる作業だ。

「技術というより感覚が大事な仕事ですね。規定内の寸法があって、今は機械がやってくれるので数値を入力すればいいんですけど、使っているのが旧式アナログの機械なので、秒数で削るんです。自分の感覚で規定の寸法内におさめるんですね」

手が汚れ油まみれになる大変な作業は、同時に職人の研ぎ澄まされた感覚と高い技術が要求される仕事。しかしながら2017年いっぱい、この事業は終わりになる予定だという。

佐藤さんたちが作った製品は、親会社の製品として電車や風車、飛行機などの重要なパーツとして使

われるために出荷されていく。

「展示会などで親会社の展示を見ると、あれ?この型番知ってるぞみたいなことがあるんです。自分が作ったんだみたいな気持ちはないんですけど、そういうときに初めて、作った物がこう使われてるんだって思いましたね。そこで初めて、自分の仕事の大切さのようなものを感じました。」

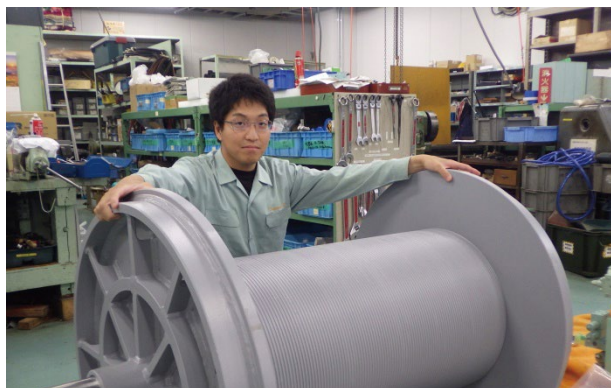
株式会社鶴見精機

TEL045-521-5252

<http://www.tsk-jp.com>

〈会社からのコメント〉

株式会社鶴見精機は、昭和3年に創業し、来年で90周年を迎えます。海洋の調査を目的とした海洋観測装置や、ダム・河川などの水質監視装置を、開発から設計、製造、販売、メンテナンスまで一貫して行っており、国内外の官公庁及び研究機関・大学等という安定した顧客を得ています。



株式会社鶴見精機の青柳です。主な業務は海洋観測船に搭載するウインチの機械設計、納入後の現地での調整作業です。

入社6年目で会社の中ではまだまだ若手ですが、これまでに大小10台以上のウインチを設計しました。また、時には観測船に乗り込み、1週間ほど航海をしながら、洋上で試験を行ったこともあります。

しかし、振り返りますと台数はこなしてきたと思う反面、まだまだ勉強が必要だと感じています。

これからもお客様に満足いただけるような、より

良い製品の設計ができるよう努めてまいります。

会社の特徴としましては、充実した仕事を行うためにはワーク・ライフ・バランスが重要と考えており、しっかりと仕事をして、休日を有効に過ごすというメリハリの利いた業務を推奨しています。

もっと高い知識や技術を体得して次のステップへ



おおしましゅう た
(左) **大嶋崇太さん** 22歳 機械製造課
あおやぎこう き
(中) **青柳恒紀さん** 27歳 機械設計課
ゆ やまりょうへい
(右) **湯山諒平さん** 23歳 サービスセンター

横浜市鶴見区にある株式会社鶴見精機は、海洋観測、陸水観測、大気観測を行うために必要な海洋観測装置、採集装置、水質自動観測装置、塩分濃度計など省庁に納品されることもある、特殊な機械や装置の製造と販売を行っているメーカー。

入社して5年になる大嶋さんは機械製造課、青柳さんは機械設計課、湯山さんはサービスセンターにそれぞれ所属している同期の3人だ。

「設計で作った部材ができあがった物を組み立てて商品の形にして出荷しています。それに機械の動作確認や性能試験であったりとか。お客様が実際に使っている商品を定期的に点検したり、部品交換をする仕事をしています。(大嶋)」

「会社が海洋業界の機械を扱っていたので、それが変わっていて面白そうだと思って応募しました。設計の図面を書いたり現場にも行くことがあるので、機械の調整や作業もしています。(青柳)」

「会社で作った機械のメンテナンスを主にやっています。実際に現場などで使ってから工場に戻ってきた物を修理したり、現場に行って装置の調整をしたりということをしています。(湯山)」

お客様の要望やニーズを実現する製品の設計、実際に製品を製作、使用された製品の修理やメンテナンスと3人は、事業の中でも重要な役割を担っている。仕事に対するやりがいやおもしろさもそれぞれだ。

「設計して完成した製品は船に取り付ける物なんですけど、その船に乗ってあまり一般の人が行かない海域まで行くこともあります。そういう所でいろいろ試験をするのに立ち会うのが面白いです。(青柳)」

「機械の整備に行くと、お客様からの要望がいろ

いろとあって。仕様書に書いてないことでも、工夫して改善したりもします。それでお客様から直接、ありがとうございますと言われたときは嬉しいですね。お客様に満足してもらえて。(大嶋)」

「現場に行ったらトラブルなどがあったときにそれを解決することもあります。そんなときに、お客様からまた来てくださってと言われると、仕事へのモチベーションが高まります。(湯山)」

そして現在取り組んでいる業務をしっかりこなし、もっと知識や技術を習得して次のステップに進みたいと3人は仕事への意欲を見せていた。

千歳自動車工業株式会社

TEL045-231-8251

<http://www.chitose-jk.co.jp>

〈会社からのコメント〉

平成28年11月9日に開催された新入社員等若手社員フォローアップ研修に当社からは入社3年までの3名参加させていただきました。

3名とも新入社員合同研修会に参加して以来、技能講習をはじめ各種職能別研修の受講はしていますが、本講習のような階層別研修は初めてです。

この研修の目的は自分の仕事の再認識、問題点の克服、自発的行動の意識づけ、前向きなマインドの構築、会社員意識の徹底、周囲との調和・協調、仕事を通しての自己成長の重用性を理解することです。特に、3年以下の受講生は社会人として仕事への取り組み姿勢のヒントを学ぶことにあります。

当社の参加者3名が研修の最後で発表した「自己宣言」を紹介します。

鈴木さん—今不良品の多さが問題になっているので、今回習ったPDCAやRPDCを自分なりに用いて、まず自分か所属している部門だけでも不良品を減らしていきたい。

塙さん—入社して一年半だが、まだ先輩に教わりながら作業していることが多々ある。これからは一人で任せてもらえるよう、努力していきたい。

野月さん—このフォローアップ研修を通し、人とのコミュニケーションが足りないと思った。会社の中の部署間の状況を理解してどのように動けばよいかを導きだして行動をしたい。—と各自発表しました。

3名ともにグループ討議等を通じ、他社の同年代とコミュニケーションを図ったことがとても有意義だったと述べています。

一方、講師の方からは「宣言したことをまずやってみてください。まずやろうと思ったことをやってみて、それから考えてみる。それが仮説・検証。やってみなければ分からない」と評しています。

研修から半年経過し、鈴木さんは不良品を40%削減し、塙さんは新製品の工程の一部を任されています。

野月さんは部署間の連絡役もこなし、仕事に前向

きに取り組んでいます。

フォローアップ研修は、職場・仕事にも慣れた頃に自己を見直し、成長するのに良い機会になったと思います。終わりに、この研修が継続的に開催されることを願っております。(業務部 山中清孝)

働きやすい職場で未経験の仕事にも意欲的に挑戦



の つきゆうすけ
(左) 野月優介さん 19歳 製造部
すず きよし き
(中) 鈴木祥希さん 20歳 製造部
はなわ ゆうたろう
(右) 塙 祐太郎さん 19歳 製造部

「もともとバイクやクルマが好きでして、それに関係する仕事をしたいと思っていました。クルマやバイクのナンバーを作る仕事ってすごく珍しいし、面白そうだと思いました。(野月)」

「クルマが好きでこの会社に入ったんですけど、ナンバープレートを作ることは会社見学で知りました。珍しい仕事だから面白そうだと思って。(鈴木)」

「以前からものづくりに興味があって、自分もそっちに向いていると思ってました。高校の時の先生から紹介していただいて、会社を見学してみて、その時に興味を持ったのがきっかけです。(塙)」

千歳自動車工業株式会社は横浜市南区にある各種アルミプレート製造のメーカーだ。同社では主に各種街区板、住居番号板、ご当地ナンバーを含むバイクのナンバープレートを製造している。

アルミを巻いたコイル状の材料から、ナンバープレートの形状に切り抜く作業を行っているのは、入社して8か月になる野月さん。入社3年の鈴木さんは、バイク用ナンバープレートをプレスする工程を担当している。できあがってきたナンバープレートに、塗装や印刷を行って仕上げているのは入社1年半になる塙さんだ。

「見たことのないナンバーが時々あったり、ご当地ナンバーでも見たことがないのは面白いですね。こんなのあるんだって。町中で横浜のナンバーを見ると、うちで作ってるんだなって思います。(野月)」

「地元の町名板をプレスしてるので、そういうのを地元で見かけるとこういうのやってるなって思いますね。会社の歴史が長いので、昔作っていた古いナンバーとかを見るのが楽しいです。(鈴木)」

「町名板とか自分の知っている所を見つけると、ここで作ってるんだって感じますね。自分の作った

物がいろいろな所で使われているのを見ると、やっぱり自分のやっている仕事に役に立っているなと思います。(塙)」

3人が揃って口にするのは、会社の良い雰囲気と経験の浅い若手を大事にしてくれると感じていることだ。わからないことがあれば、先輩や上司が親身になって教えてくれ、仕事をしていて楽しいと語る。そして自分の担当をしっかりとこなし、他の部署での作業をやってみたり、まだ経験したことのない仕事にも挑戦していきたいと意欲を見せていた。

大洋建設株式会社

TEL045-861-0025

<http://www.ocean-group.co.jp>

〈会社からのコメント〉

大洋建設株式会社は、公共施設・共同住宅・医療福祉施設・商業施設・産業施設・個人住宅などのさまざまな建物を築く総合建設会社です。

地域密着型企业として実績を重ね、2017年に設立50周年を迎えました。横浜市戸塚区を中心に横浜市・神奈川全域・東京西南部のエリアで活動しています。地域密着型企业のため、転勤がないこととさまざまな建物に携われることが当社の最大の魅力です。また、アットホームな社風と充実した福利厚生も特徴です。社員同士の仲が良く、わからないことがあっても、部署を超えて相談し合える環境があります。

さまざまな福利厚生の中でも、大洋建設では「感動と好奇心」を大切にしたいイベントが沢山あることも特徴です。自分が感動をしなければ、人に感動を与えることは難しいものです。当社では社員一人ひとりにさまざまな感動を経験してもらうことも大切にしています。例えば、異業種ではありますが、「鈴鹿8時間耐久ロードレース研修」を毎年実施しています。これは、レーシングチームのピットクルー・ライダーたちの息の合った共同作業を間近で見学し、チームワーク向上に役立てています。また、年に数回、グループ会社の女性社員が集まる「女子会」を開催しています。女子会には社長も参加をし、女子会で出た意見を積極的に採用してくれています。産休・育休を取得した社員同士で子育てならではの苦労やアドバイスをし合い活力にしている社員もいます。物事に対して「感動と好奇心」をもって、自ら行動できる方と共に働くことを楽しみにしています。





お客様に喜んでもらえて自分たちも誇りに思える建物を



(左) みずの きみはる 水野公陽さん 23歳
 (左から2番目) いいくぼともや 飯達友耶さん 18歳
 (右から2番目) かる べ ゆう き 軽部勇樹さん 23歳
 (右) た な か ゆ う り 田中佑理さん 18歳

横浜市戸塚区の大洋建設株式会社は個人住宅や一般建築から、小学校や警察署のような公共の建物、マンションや商業施設、医療施設などの建築や改修を行っている総合建築会社だ。その実績は多岐にわたる。

生産本部建設第1部に所属する4人は多様な建物や工事を行う同社に魅力を感じて入社した。決めた手になったのは同社のアットホームとも言える雰囲気の良さだったという。

「他社も受けたんですけど、戸建てやマンションだけでなく、小さい現場から大きい現場までいろいろなことに挑戦したいというのがあって。会社が様々な案件を扱っているのを知って決めました。(水野)」

「施工管理の仕事をしています。大洋建設は建物を幅広く手がけていて、自分もいろいろな建物に携わりたいと思って。この会社のことを知り、実際に行ってみたら雰囲気が良くて志望しました。(飯窪)」

「他社の面接を何度か経験してから面接に行っただけです。役員の方が5人いて緊張しましたが、むしろアットホームな感じでした。社長面接ではお客様をもてなすかのように、入社してから変わらないです。(軽部)」

「入社前にインターシップを受けたんですけど、

そのときの雰囲気がとても良かったんです。3人も言っていましたけど、すごくアットホームな会社で。入った後もそうで、今も入って良かったなと思っています。(田中)」

それまで足を踏み入れたことのなかった現場にも行って、仕事をこなしながら多くのことを実地で学んでいる。様々な業種の職人たちとふれ合いを通して彼らのすごさを知り、仕事の楽しさや、自分たちの役割と使命を強く感じた。そしていつかお客様に喜んでもらい、自分たちが誇りに思えるような建物や工事をてがけていきたいと語る。

「業者の方との打ち合わせを上司がやってるんですけど、自分が指示を出して職人さんと一緒に建物を完成させるのが第一段階。将来的には自分のやりたいプロジェクトをやり遂げて、どれくらい利益が出せるのかとかをやってみたいです。(水野)」

「会社のため、地域のためという風に考えてこれからも仕事を行っていきたいです。内装や仕上げなど図面を見る作業を任されるようになりたいです。徐々に上司の良いところを学んで、知識をつけて、最終的にお客様に喜んでもらえる建物を作りたいです。(飯窪)」

「わからないながらも毎日がんばった現場が立ち上がり、引き渡したときにすごい達成感があります。自分がレベルアップしていくのもですけど、地元を離れても大洋さんなら大丈夫という信頼感を得られるようにしたいです。(軽部)」

「何もない状態から、少しずつできあがるのを見ていると達成感があります。わからないことだらけで苦労してますけど、新しい発見もあるので充実しています。今は業務で安全面を見ることが多くて、あまり図面を書いたりという仕事を任されていないので、そういうこともやっていきたいです。(田中)」

東洋電装株式会社

TEL045-506-3300

<http://www.toyodenso.co.jp>

現場で知った仕事のおもしろさとやりがい



まつしたれい や
 松下玲矢さん 23歳 工務部

研修を受講し、異業種の方々の忌憚のない意見をお聞きする事が出来まして、自分なりに仕事の中に



楽しみを見つけることができました。自分にとっては、有意義な研修でした。有難うございました。

今後もフォローアップ研修の機会を作っていただきたいと思います。(松下玲矢)

横浜市鶴見区の東洋電装株式会社は、建築物の電気と情報通信設備、鉄道施設の電力、情報通信設備の工事。プラントや関連施設の電力や制御、通信設備の設計から施工などを行っている企業。

同社に入社して3週間という松下さんは、子供の頃からものづくりが好きだった。やがて趣味の電気工作を通じて電気に興味を持った。それが今の仕事に就きたいと思うきっかけになったという。

「電気に興味があったことと、会社が家から通えるということが大きかったです。それに、地元の神奈川県に何か貢献できるような会社が良いと思って、この会社に志望しました」

現在は工務部に所属し、電気施工管理の業務を行っている。図面の設計や建設現場で働く職人の管理など主な仕事なので、現場に行くことも多いという。

「まず仕事をするのに資格がいろいろと必要になるので、そのための勉強をしています。資格がないと現場で仕事をすることができないんです。それから現場に行くことで、材料の用途や仕事の進め方など、いろいろなことを覚えています。今は毎日が勉強で実地研修のような感じですね」

学ぶことが山のようにあり、先輩の後について施工現場に通いながら日々勉強している。実際に現場へ行ってみると、社会人になる前に持っていた現場のイメージとはまったく違い、おもしろさとやりが

いを感じた。必要な資格を取得し、やがては自分が統括する現場を持ちたいと語る。

「今は先輩にくっついて現場を歩いているような状態なので、いずれは自分が担当する現場を持てるようになりたいですね。どんな工事でも現場監督が主体となってやっているの、すごく大変そうだけどやってみたいです。先輩の姿や職人さん、協力会社の人たちとのやりとりや働きぶりを見て、自分もやってみたいと思ったんです」

職場は働きやすく先輩がいろいろと声をかけてくれ、教えてくれる。また社長が、自分はこういう考えを持っていると話してくれるのでとても勉強になるそうだ。

県や市から依頼される仕事が多く、現在は消防署の新築工事に携わっている。将来は公共施設やインフラの建設に関わる仕事をしていきたいと思っている。

日鉄工営株式会社

TEL045-364-8030

<http://www.nittetsukohei.co.jp>

〈会社からのコメント〉

今回の「新入社員/中堅社員フォローアップ研修会」では2016年度新入社員が参加させていただきました。

高校を卒業したばかりの彼に、会社とは何か?仕事とは何か?ということの理解を深めてもらいたく、参加を決意しました。当社では入社後約1か月は新入社員研修を行います。研修内容はおもにビジネスマナーや基本的な敬語の使い方、仕事の行い方です。学生の頃でも先生や先輩といった自分よりも上の立場の方はいますが、フレンドリーに話しかけがちなのが現状だと思います。もちろん社会人になったとしても会社の先輩や時にはお客様とも仲良くしていただきたいですし、悪いことだとは思いますが「親しき仲にも礼儀あり」という言葉があるようにまずは「礼儀」という基礎があり、その礼儀とは何か?を覚えていただきたい・考えていただきたいと会社では思っています。入社後の研修ではそこを重点的に研修し、その後、各部門に分かれ実践的な業務研修を行っていただきますが、時間が経つにつれ、入社後の研修で学んだことを忘れてしまうこともあり、今回のフォローアップ研修の開催は会社としてもとても有難い内容・時期でした。

当社では以下3つの事業〈塗装ロボットシステム事業・薪ストーブ事業・KUSANONE ITS事業〉に取り組んでおります。

塗装ロボットシステム事業では、乗用車を塗装するロボットの関連設備(周辺設備)の設計・製作・取付工事・保守点検等を行っております。客先は大手自動車メーカーが主で、現場は国内だけでなく海外の場合もあります。

薪ストーブ事業では、「キューブFLAME」とい

う自社ブランド製品を販売しております。4 色のカラーバリエーションがあり、頑丈な鋼鉄を使用してあります。

KUSANONE ITS 事業では、カーナビやETCが代表例のITSシステムを地域の特徴に合わせ活用しています。ゆずりあいロード支援システムや埋設型車両感知器といったシステムの開発・設置に取り組んでおります。また当社は若者が活躍できる会社を目指しております。今回の研修に参加した者も、業務研修の後、出張で自動車工場に出掛け、塗装ロボットの設置工事の一部を担いました。「予定の業務を完了し、お客様からお礼の言葉をいただいた時は大変うれしかった。やりがいのある仕事に従事でき、大変よかった。」と話していました。

会社は新規事業へも大変積極的に取り組んでおり、現状に満足することなく、さらなる発展を目指しております。一緒に成長できる新たな社員も募集しております。

お客様に喜んでもらえる製品作りと魅力を伝える仕事



うえはら ひさし
(左) 上原 寿さん 18 歳 技術部

いけだ あんじゅ
(右) 池田杏樹さん 19 歳 営業企画部

自動車製造の工程で車体などの塗装を行う、塗装ロボットの製造とシステム事業をメインに、オリジナルの薪ストーブの製造・販売などとしている日鉄工営株式会社。横浜市瀬谷区で様々な分野の産業用機械、設備の開発や製造などを行っているメーカーだ。

2016 年 4 月に入社した池田さんと上原さん。池田さんが同社を志望したのは、会社の見学会に参加して、社内の雰囲気が良く感じられたことも大きかったという。

「就職活動をしていたときに会社の見学会に参加して、働いている社員の方々の雰囲気がとても柔らかい感じだったので。若い方も多くて楽しそうだと思います」

上原さんはクルマが好きだったことから、この会社を志望した。

「クルマが好きで、自分が卒業した高校が自動車科だったので、なんらかの形でクルマに関わる仕事がしたかったです。会社が自動車メーカーにロボットを納入していると知って志望しました」

まだ 1 年目なので 2 人ともわからないことも多く難しいことも多いが、先輩や上司のサポートを受け勉強中だ。

「まだ知識が全部あるわけではないので、どういう風にお客様に製品の良さや魅力を伝えたいのかというところが難しくて。まだまだ勉強しないといけないこともあります。先輩方から全部教えていただいているので、とても勉強にもなります。(池田)」

「まだ先輩から教えてもらいながらなんですけど、機械加工をしたり機械の設置工事をするときの資料を作ったりしています。加工はまだまだなので、少しずつ技術を覚えていきたいです。(上原)」

忙しく過ぎていく日々の中、仕事へのやりがいもそれぞれ感じていると 2 人は語る。

「仕事をするようになってから薪ストーブの奥深さを知ることができて楽しいです。実際に製品を使っていたりお客様とお話する機会もあって、そのときに製品の良さを笑顔で話していただいたときに、やり甲斐を感じました。(池田)」

「自動で塗装をする機械を作ったときに鉄の角パイプとか材料だけの状態から機械ができていって、最終的に動くまでになったときにすごいって思いました。自動車の生産ラインにロボットを設置したりするものですから、自分たちが設置したロボットがいろいろな製品を作っているんだと思うと、仕事に対するやりがいを感じます。(上原)」

日本自動精機株式会社

TEL045-814-7850

<http://www.nafm.co.jp>



〈会社からのコメント〉

当社は自動の包装機械（自動箱詰機・ペットボトルや瓶にラベルを装着する機械等）や一次電池・二次電池の製造設備を受注生産しております。長年の研究成果と高度な技術をベースに、スーパーマーケットやコンビニエンスストア等で広く流通している、食品・飲料・医薬品等の多くを当社の製品で包装しております。それを目の当たりにする度に私達は社会に広く貢献している事を実感すると共に、己

の仕事を誇りに思うのです。楽しそうに仕事をしている声がよく聞こえる、アットホームな職場です。レクリエーション行事や青年会、部活動（軟式野球部）等の運営を通して社員達は活き活きと働いております。誇りを持ち、やりがいを大いに感じられる、そのようなお仕事を一緒に行ってみませんか？



目標は自分が関わった機械が製品化されること



もりや まい
守屋 舞さん 22歳 設計部

フォローアップ研修会でアンガーマネジメントについて学んだ事が印象的でした。アンガー＝怒り マネジメント＝コントロールという意味だそうです。

働いて行く中で感情的になる事も場合によってはあると思いますので、如何に自分をコントロール（自律）できるかが肝要だと思いました。

本研修会は、社会人としての姿勢や心意気について振り返る良い機会となりました。

ものづくりが好きだったことから工業高校に進学し、建築について学んだという守屋さん。しかし建築や木工の業界は力仕事を伴うこともあり、女性では肩身が狭いのではと思っていた。そこには設計という仕事があることを知り、実際にやってみたらおもしろかった。それで卒業後は設計の仕事に就きたいと思っていたが、建築関係では仕事が見つからなかったという。そして学校からの紹介で知った現在の会社でも、設計ができることを知って志望した。

「自分の身近にある物はだいたい機械と何かしら関わっているので、そういう仕事に就けば自分のやりたい仕事にもつながるし。やりがいも見いだすことができるんじゃないかと思いました」

入社4年目の日本自働精機株式会社は、様々な製品を包装する、自動包装機械やシュリンクラベラー、乾電池製造ラインと梱包ラインなどの機械を製造しているメーカーだ。

それまで建築関係の設計を学んでいたが、機械に関するものは皆無だった。まだ実力が追いついていないので、設計を任せられるほどではないが手伝いで図面を書いている。また機械を作るのに必要な仕様書や、製品の取扱い説明書などの製作を行っている。

「機械の設計は難しいです。機械関係はまったくのゼロからで全然知らない世界でした。ひとつの機械を作るのに何千点も部品があって、何十人も関わっているんです。すごいなーっていうのと、すごく難しいけれど楽しいなって思います」

会社ではすべての部署が同じ部屋で仕事をしていて、横のつながりも良くわからないことはすぐに聞けるので毎日楽しく働いている。

完成した製品が納入され、その機械で箱詰めや包装をした商品が店頭に並んでいるのを見つけると嬉しくなる。自分も一緒に仕事をさせてもらったなというのが、目に見えてわかるから。そんなときに仕事へのやりがいを感じるのだという。そしていつか自分が設計や製作に関わった機械を作り、お客様に喜んでももらいたい。それが入社以来の目標だと語る。

「いつかはお客様の要望を聞いて、それを自分なりに考えて。自分も設計や製作に関わった機械が製品化されて、お客様のところで使っていただけたらいいなと、会社に入ってからずっと思っています。それが目標です」



交流会のひとつコマ



新入社員合同研修会

当連合会主催の新入社員合同研修会を4月13日(木)から14日(金)の1泊2日の日程で帆船日本丸・訓練センターで開催しました。

31回目となる今年は、17社から67名と例年以上に多くの方の参加をいただきました。「帆船日本丸」でなければできないカッター訓練やマストを登る登橋(しょう)訓練などの体験を通してチームワークの重要性、協調性、チャレンジ精神などを養い、企業人としての自覚と責任を引き出し組織の新戦力を育てる目的で実施され、その様子は、13日NHK首都圏ニュースで紹介されました。



癸巳化成株式会社 岩崎 瑞葵

私は、二日間の研修で大きく三つのことを学びました。一つ目は社会人としてのマナー、二つ目はコミュニケーションの大切さ、三つ目がチームワークの大切さです。これら三つについて具体例を挙げながら書きたいと思います。

まずは社会人としてのマナーについてです。研修で学生と社会人の違いを考えた際、責任の重さ、受動的ではなく能動的な姿勢になること、自己管理をしなければならないことを学ぶことができました。社会人になれば誰かが教えてくれるということではないので、積極的に自分から学んでいく姿勢で生活していきたいです。

次にコミュニケーションの大切さについてです。研修のグループワークで、自分の意見を言うだけではなく、相手の人の意見を聞くこと、さらに自分の考えとの類似点、相違点を探すことの重要性を学びました。自分では思いつかなかった意見を聞くことで、物事の見え方や考え方を様々な方向から考えることができました。

三つ目はチームワークの重要性についてです。こちらは二日目のカッター訓練で学びました。一人だけが力を出しても進まないため、全員で揃える必要があります。最初は、全く合いませんでしたが、時間が経つにつれ、漕ぐタイミングが合うようになりました。想像以上に力を要したため、大変でしたが、辛いときこそ協力することの重要性を学ぶことができました。

最後に、二日間の研修を通し、私は自己管理ができ、信用される人になりたいと思いました。そのためには基本のあいさつや時間を守るだけでなく、様々な年代や部署の方と会話をし、意思疎通を図っていきたいです。

株式会社ハマ住センター 下山 千佳

社会人として初めての宿泊研修を終えて、自分を切り替えるきっかけとなる「気づき」を多く得ることができました。たった二日間の新しい仲間との共同生活は自然とチームワークを感じ、共通の課題を乗り越えるごとに強くなったように思います。初日のグループ討議での議論や居室準備、二日目最後に行ったカッター訓練などでは、互いの能力を活かしつつ足りてない部分にはフォローに入るなど、コミュニケーションが円滑になっていく様子を実感することができました。チームでいることの心強さや仲間から良いところを学びとり、自分自身を成長することができたと思います。

次に、初めての課題に対する対応力や、完成、達成までのプロセスの組み方を考えさせられる機会が多くありました。説明を受けてから実践するまでに新しい気づきや、まさに仲間から学ぶ点が数多くありました。同時に実際に体験をしてから分かる視点も新鮮に感じられました。

最後に、これらの経験は私自らの知識として、また経験値として必ず必要だと感じております。この心持ちを忘れずにこれからの社会人としての仕事に活かすことができるよう、努力を怠らず前を向いて進みたいと思います。



研修のひとコマ

「新入社員合同研修会」カリキュラム

1日目	時 間	場 所	内 容
4 月 13 日 (木)	8:40～9:00	訓練センター	受付
	9:00～9:15		オリエンテーション（日課説明、諸注意）
	9:15～9:45		作業服に着替え（男性：第1教室、女性：第2教室）
	9:45～10:00		開講式 挨拶 横浜市工業会連合会 日本丸船長 職員紹介
	10:00～12:00		オリエンテーション、自己紹介 グループ討議（学生と社会人の違い、社会人とは） 相互確認（社会人にふさわしい第一印象を身につける）
	12:00～13:00		昼食
	13:00～14:00		船内見学（ビデオ鑑賞15分 船内見学45分）
	14:00～15:20	日本丸	登檣（しょう）訓練（メインマスト、トップ台登檣）
	15:20～15:30	日本丸前	集合写真撮影
	15:30～16:30	訓練センター	練習（あいさつ、お客様対応） 個人ワーク「理想の社会人となるために必要なことは？」
	16:30～16:45	訓練センター	休憩
	16:45～17:30	日本丸	居室準備（ボンク（ベッド）メイク、居室の確認）
	17:30～18:00		防火避難訓練（避難経路の確認）
	18:00～19:00	訓練センター	夕食
	19:00～21:00		グループ討議 ①基本編「あなたが職場で心がけていること」 ②応用編「仕事を円滑にすすめていく上でのコツ」 グループ発表＆審査
	21:00～22:20		入浴等
	22:20～22:25		移動（日本丸スタッフ誘導）
	22:25～22:30	日本丸	巡検（船内にて人員の確認）
	22:30	日本丸	消灯、就寝

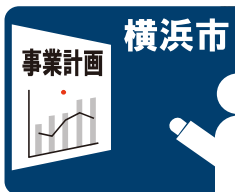
2日目	時 間	場 所	内 容
4 月 14 日 (金)	6:30～6:40	日本丸	起床・体操
	6:40～7:20		甲板磨き（甲板に集合、椰子の実を使った甲板清掃）
	7:20～8:00		朝食
	8:00～8:45		居室整理（各部屋、公共スペースの掃除）
	8:45～9:30	訓練センター	船長講話 … 講師 日本丸船長
	9:30～9:40		休憩
	9:40～12:00		講義（社会人の基本マインド、社内コミュニケーション） 練習（言葉遣いと電話の受け方） ロールプレイング（報連相）
	12:00～12:45		昼食
	12:45～15:45	周辺水域	第1班A～D … カッター訓練、第2班A～D … 結索訓練 第2班A～D … カッター訓練、第1班A～D … 結索訓練
		訓練センター	ねらい チームワークの重要性と連帯感・協調性をカッター訓練から会得
	15:45～16:00	訓練センター	私服に着替え、荷物整理（男性：第2教室、女性：小会議室）
	16:00～16:30		「研修を受講して」の感想文作成
	16:30～17:00		口頭発表会
	17:00～17:10		閉講式（認定書授与・閉講挨拶①日本丸船長②講師③市工連）

4.13

入社員合同研修会

船務部長 船務部員 船務部員 船務部員





平成29年度 経済局関連の主要事業 (中小製造業支援主要事業)

主要事業

横浜ものづくりコーディネート事業 3,455万円

企業の技術部門、営業部門出身者等を「ものづくりコーディネーター」として市内中小企業等に派遣し、技術力、製品の強みなどを把握します。その上で、他の企業や大学等の最適なビジネスパートナーを紹介し、中小企業の新製品開発や販路開拓を支援します。【(公財)横浜企業経営支援財団：045-225-3733】

住工共生活動応援事業【新規】 100万円

住工混在が進むエリアにおいて、オープンファクトリーなど、ものづくり企業と地域とが相互理解を深める取組に対して支援を行います。【経済局ものづくり支援課：045-671-3489】

IoT推進産業活性化事業【新規】 5,500万円

横浜経済の強みである「ものづくり・IT産業の集積」を活かし、IoT等を活用したビジネス創出に向けた、交流・連携、プロジェクト推進、人材育成等の場となる「IoTオープンイノベーション・パートナーズ (I・TOP横浜)」を立ち上げます。【経済局ものづくり支援課：045-671-3489】

横浜ライフイノベーションプロジェクト等創出推進事業【拡充】 8,000万円

産学官金連携のもと、「横浜ライフイノベーションプラットフォーム (LIP:横浜)」によって、様々なアイデアから革新的なプロジェクト等を創出・推進することにより、横浜から健康・医療分野における新技術・新製品を生み出していきます。【経済局ライフイノベーション推進課：045-671-2037】

◆中小製造業設備投資等助成事業、中小企業新技術・新製品開発促進事業 (SBIR) の平成29年度募集は終了いたしました。



人材確保・育成に係る支援

健康経営・ヘルスケアビジネス推進事業【拡充】 1,130万円

健康福祉局と協働し、企業の健康経営や市民の健康づくりの取組を支援します。

◆健康経営に取り組む中小企業への専門家派遣【新規】

◆企業集積地における民間協働型の健康経営支援拠点のモデル設置【新規】

合同就職面接会などによる求職者と企業の採用担当者との面談の場を提供します。

◆大学と連携した、健康経営を実践する企業の生産性向上等の効果測定【新規】

◆企業や地域のニーズに基づくIoTやライフイノベーション分野と連携した新たな健康関連サービスの創出

【経済局ライフイノベーション推進課：045-671-4601】



テレワーク推進企業モデル 150万円

時間や場所にとらわれない柔軟な働き方が可能となるよう、テレワークを推進する企業に必要な経費を助成するとともに、その取組を成功事例として紹介します。【経済局経営・創業支援課：045-671-3492】

女性活躍環境整備支援事業 525万円

女性が働きやすい職場環境整備のための費用を助成します。

女性活躍推進を目指す中小企業へ、社会保険労務士などの専門家を派遣し、企業の実情に応じたアドバイスをを行います。

【経済局経営・創業支援課：045-671-3828】

ものづくり人材育成支援事業 848万円

【経済局ものづくり支援課：045-671-4144】



平成29年度 横浜市産業振興に関する 要望についての回答

市工連では昨年秋、市の予算編成にあたり、市内の産業振興を図るための政策提言及び要望書を提出し、実現に向け要請を行いました。この度、市当局から、次のとおり回答がありました。

なお、紙面の都合上、重点要望と経済局への要望を取り上げ、回答文を掲載しますが、要望事項は見出しのみ掲載します。

《重点要望》

1 内陸部工業集積エリア等実態調査を踏まえた製造業支援

【回答】

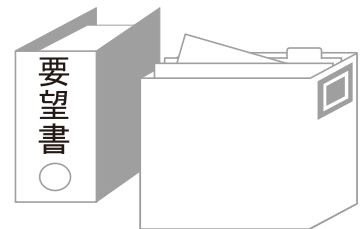
内陸部工業集積エリア等実態調査（平成27年度）では、現在地での操業継続を予定している事業所は約9割である一方で、住宅の立地制限を望む割合は、25%程度であることから、引き続き慎重に検討していきます。

なお、操業環境の維持向上に対する支援として、中小製造業設備投資等助成制度において、平成29年度は、騒音・振動・臭気の発生を低減するための建屋内の改修を助成対象とするなどの拡充を行います。

2 中小ものづくり企業の社員の育成などを通じた企業の魅力向上

【回答】

若者の「ものづくりイメージ向上」に向けた支援として、高校生を対象とした工場見学会や高等学校の採用担当者との懇談会など、今後も引き続き貴団体と連携し取り組みます。また、従業員の資格取得に対する支援についても行っていきます。



《経済局》

1 内陸部工業集積エリア等実態調査を踏まえた操業環境の改善・製造工場に近接する新規住宅開発事業者への指導強化

【回答】

(1) 内陸部工業集積エリア等実態調査（平成27年度）において、全市で見た場合、工業系地域で「住宅の立地制限を望む」割合は25%程度であり、共同住宅などの立地を抑制する施策は慎重に検討する必要があると考えています。

建設される共同住宅については、庁内各部署との連携を図り、確認申請の際に「工業地域等共同住宅建築指導基準」などの周知の強化を図っていきます。当指導基準においては、建築主に対して近接工場主等と協議を行った上で、協議結果や環境対策について報告書を提出いただくよう指導しているところです。建築主と近接工

場主等との間で合意を得て協議を終えられるよう、引き続き建築主に対する指導を行っていきます。

(2) 中小製造業設備投資等助成制度において、操業環境の維持向上に対する更なる支援として、平成29年度から新たに騒音・振動・臭気の発生を低減するために行う、吸音材・二重サッシなどの設置といった建屋内の改修も助成対象とするなどの拡充を行います。

2 金沢臨海部産業活性化への継続的な取り組み

【回答】

平成29年度は、働く魅力があり、優れた人材が集まることを目指す「金沢臨海部産業活性化プラ

ン」(平成28年度策定)を実行に移す年として、引き続き地域と協議を進めるとともに、地域情報誌の発行など、地域のブランド力を高める取組を区や地元団体と一体となって進めていきます。

3 販路拡大に対する支援

[回答]

(1) グループで国内外の展示会に出展する際の支援として、「チーム de ものづくり」応援事業では、市内の中小製造業を中心とする複数の企業等で構成されるグループが実施する活動経費の一部を助成しており、展示会出展の際にもご活用いただけます。

また、横浜市海外展示商談会出展助成事業では、市内中小企業に海外展示商談会の出展料の一部を助成しており、企業にとってより利用しやすい支援となるよう引き続き検討していきます。

(2) 地域貢献企業の認定では、企業が取り組む地域貢献活動や経営システムを評価します。認定企業の業種は多種多様のため、知的財産を活用した技術やサービスの展開を評価対象とする「横浜知財みらい企業」とは異なり、販路拡大に向けた経費助成を支援策に掲げることは難しいと考えます。

平成29年度は、先駆的な取り組みや長年に渡り活動を続けている認定企業を表彰する制度を創出するなど、認定企業や制度の認知度向上に努めていきます。

(3) 本市では平成25年度から、事業承継を啓発するセミナーの開催や専門家による個別訪問相談を実施するとともに、事業承継計画の策定やM&Aを行う場合の専門業者へ支払う必要経費の一部助成を実施しています。また、平成28年度から円滑な事業承継を行う上で重要な課題である後継者支援として、次世代経営者向けの連続講座(よこはま後継者塾)を開催しています。

(4) 「チーム de ものづくり」応援事業では、より多くのグループにご利用いただけるよう、平成28年度の申請から団体の代表者は「横浜市内で1年以上の事業実績をもつ」という要件を削除しました。適正な補助金執行の観点から必要な書類などがありますが、手続に際しては、分かりやすく丁寧な説明に努めていきます。

(5) 中小企業におけるIoTの利活用については、企業の競争力強化につながる重要な契機と捉えています。そこで、あらゆる分野の企業が参画する連携の場として「IoTオープンイノベーション・パートナーズ(IoTOP横浜)」を構築し、具体的な実例を交えたセミナーや、中小企業が参画するプロジェクトへの支援を行うなどIoTの推進に努めていきます。

また、中小製造業設備投資等助成事業において、平成29年度から工場内のネットワーク化のシステム導入経費なども助成対象として拡充します。

さらに、横浜市立大学などの学術研究機関とも連携し中小企業向けにIoT人材育成セミナーなどの取組を進めます。

(6) 共同主催者である貴団体、神奈川県、神奈川県産業振興センターとともに、テクニカルショウヨコハマのさらなる充実に向けて活発な協議を行い、意欲ある市内企業の成長発展と、販路開拓を支援していきます。

また、今後もセールスサポートスタッフの活用による商談機能の充実や横浜市立大学生の参画による中小ものづくり企業への理解促進など、より実り多い展示会とするための取組を行っていきます。

出展企業の皆様の要望を把握し、これを反映した展示会のあり方を貴団体とともに検討していきます。

4 人材確保・育成

[回答]

(1) 人材不足が深刻化する中、将来を見据え、若者の雇用・育成の必要性は年々高まっています。本市では、貴団体と連携し工場見学会や展示会などを通じ、製造業のイメージ向上に向け、引き続き取り組んでいきます。

(2) 市民向けの総合案内窓口「横浜市就職サポートセンター」において、市内在住・在学の就職を希望する18歳以上39歳以下の若年者を対象としたインターンシッププログラムを実施しています。

また、高校生のキャリア教育の一環としては、神奈川労働局と連携し、求職者と企業の採用担

当者との面談の場である、高校生就職フェアを年2回開催しています。引き続き、高校生を含む若年者の就労支援を進めていきます。

- (3) 金沢区、都筑区、戸塚区など、地域のものづくりの魅力発信事業に取り組む区役所との連携を推進しています。引き続き、製造業支援を図る区役所とIDECとの連携を促進するとともに、学校や貴団体、地域工業会などの各関係団体と協調しながら、ものづくりのイメージ向上や雇用確保につながる支援を行っていきます。

- (4) 平成28年度に貴団体と共に、工業高等学校などの就職支援担当者を訪問し、ものづくり企業の工場見学会へ参加していただけるよう、事業周知活動に取り組みました。

高校生の就職担当者との交流会を企画する貴団体、地域工業会のお話を伺いながら、引き続き必要となる支援に取り組めます。

- (5) 神奈川労働局では、本市を管轄するハローワークの窓口を6か所設置しています。

また、第二新卒者を含んだ、大学・短期大学・高等専門学校等卒業予定の学生及び概ね既卒3年以内の若年者を対象とした「横浜新卒応援ハローワーク」と、45歳未満で正社員を目指す方を対象とした「横浜わかものハローワーク」を設置し、求職者に対し、人材を募集している企業の情報提供と職業紹介を行っています。

さらに、本市では、市民向けの総合案内窓口「横浜市就職サポートセンター」において、市内在住・在学の就職を希望する18歳以上39歳以下の若年者を対象としたインターンシッププログラムを実施することにより、第二新卒者を含む若年者と市内中小企業等とのマッチング支援を進めていきます。

- (6) 本市では、「働き方改革」による多様な働き方の創出に向けて、市内中小企業等や市民を対象とした「在宅勤務（テレワークやクラウドソーシングなど）」に関する普及・啓発セミナーなどを進めることにより、支援を行っていきます。

在住外国人への支援としては、横浜市国際交流協会や国際交流ラウンジにおいて、日本語学習や日本での暮らしに関する相談対応などを行っています。

女性への支援としては、男女共同参画センターにおいて、引き続き、関係部署が連携しながら

女性の就業支援のための相談窓口の設置や情報提供、各種講座の実施に力を入れていきます。また、よこはまグッドバランス賞の認定などを通じた中小企業の働きやすい職場づくりの推進や、継続就業や優秀な人材確保につなげるため、市内経済団体と連携しながら「働き方改革」の普及啓発を進めていきます。

- (7) ものづくり企業の従業員を対象に、技能検定受験費用の助成などの支援を行っていきます。

5 局・区連携の強化、事業支援部署の開設

【回答】

テクニカルショウヨコハマへの企業の出展や地元企業への雇用確保について、既に局との連携の下、これら支援に取り組んでいる区もあります。引き続き、区・局、地域工業会などとの連携を深めながら、地元企業への支援を行います。





累計 **47,000**名超受入れ



平成29年度アイム・ジャパン
ポスターコンクール最優秀作品

「外国人技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律」
平成28年11月28日公布され、平成29年11月1日から施行されます

－技能実習制度の拡充4年5年目の実習が可能－

新法では、優良な実習実施者（受入企業）・監理団体に限定して第3号技能実習生の受け入れが可能となります。そのためには、優良な監理団体・受入企業、2号実習生（3年目の実習生）が技能検定3級の実技試験合格が要件となっています。また、優良な監理団体等における受け入れ人数枠の拡充、対象職種の拡大が行われます。

アイム・ジャパンは、新法における優良監理団体の
「一般監理団体」の許可を受けるべく取り組んでいます

－アイム・ジャパンの特長－

1993年の外国人技能実習第一期生受入から現在まで、累計47,000名以上のインドネシア・タイ・ベトナム・バングラデシュ政府派遣の外国人技能実習生を受け入れています。入国後の集合講習において、雇入れ時教育（KYTを含む）、特別教育（クレーン運転、アーク溶接）を実施し、5トン以上の床上操作式クレーン運転・1トン以上の玉掛・フォークリフト運転技能講習取得の支援を行っております。

アイム・ジャパンの帰国実習生は、日系企業や現地企業に就職し、スーパーバイザーとして活躍、起業して経営者となっています。

<http://www.imm.or.jp/>

問い合わせ・資料請求

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町2-4-3ユニゾ堀留町二丁目ビル
アイム・ジャパン海外事業部 藤川・伊藤 TEL：03-5645-5627

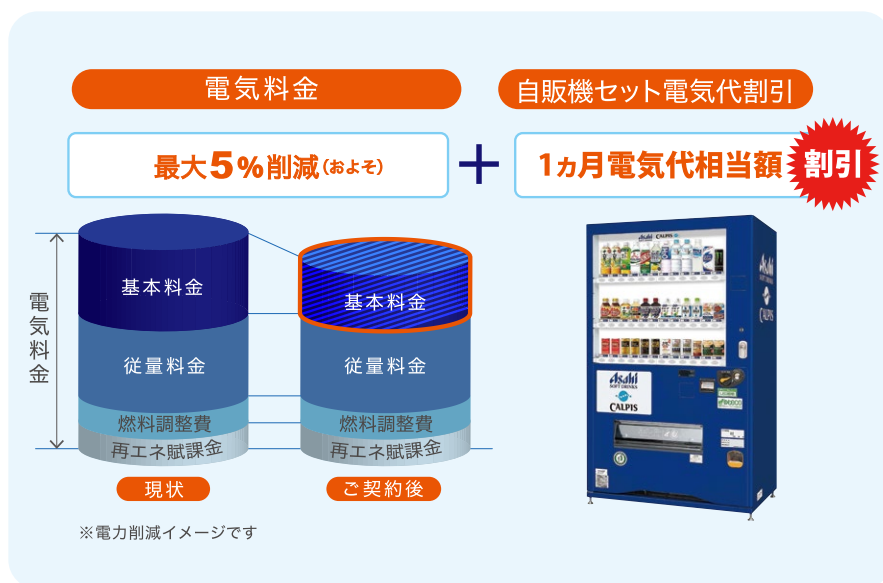
アサヒ飲料販売㈱の経費削減お役立ち企画

自販機と新電力のセット契約で 電気代 **最大5%削減**

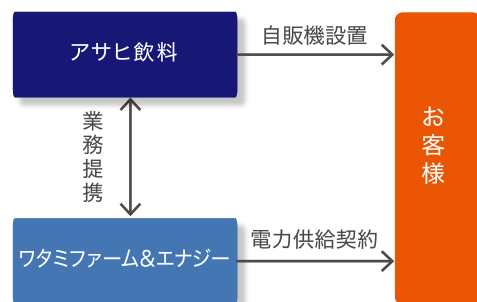
さらに 自販機1ヶ月分電気代相当割引

自販機セット電気代割引

2000年度より、電力小売規制が順次撤廃され、2016年4月より低圧電力でご契約の事業所や一般家庭でも電力会社を自由に選択できる完全自由化がスタートしました。アサヒ飲料(株)では電力小売事業者のワタミファーム&エナジー(株)と独自に連携し、電力需給契約と飲料自販機をセットでご契約いただいたお客様に対して通常の電気料金割引に加えて自販機の1ヶ月分の電気料金相当額の割引が毎月適用されるサービスをご用意しました。



スキーム図



※電力供給受付窓口は(株)サンコーライテックとなります

導入までのながれ



※負荷率によってはご対応ができない場合もございます ※電力の切替えに約3ヵ月かかります

その感動を、わかちあう。

Asahi
SOFT DRINKS

アサヒ飲料株式会社
東京都墨田区吾妻橋1-23-1
アサヒグループ本社ビル



03-5619-5673



takesi.hukumoto@asahiinryo.co.jp

【営業担当】
福本(ふくもと)